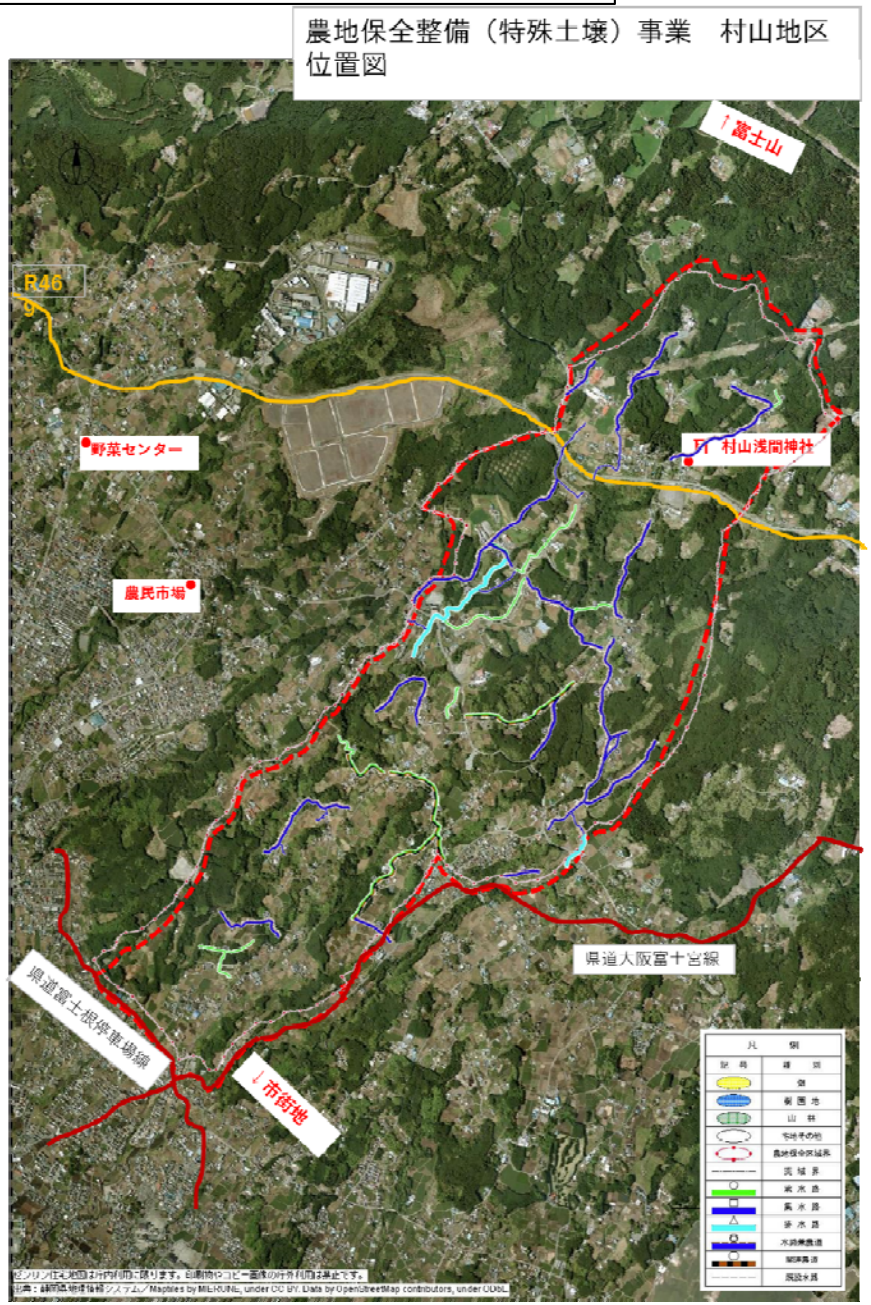
令和3年度公共事業事後評価

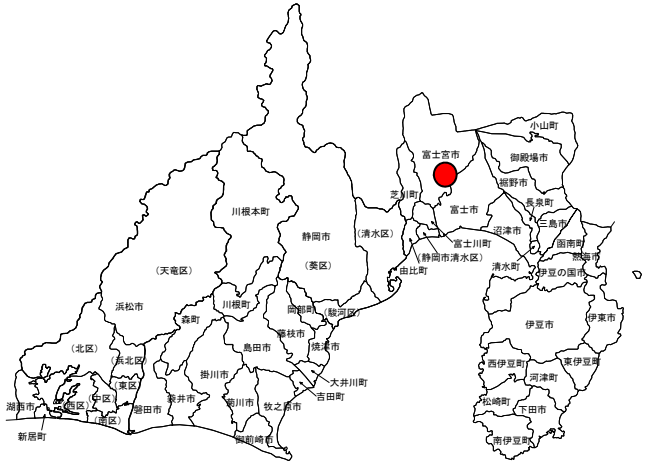
農地保全整備（特殊土壌）事業

村　山　地　区

経済産業部　農地局　農地保全課

位置図／事業概要





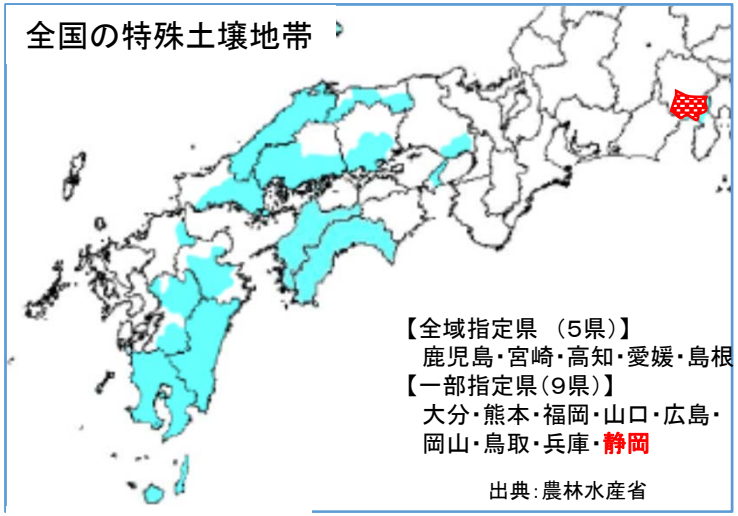
施工箇所：富士宮市村山
受益面積：129.0ha
工　　期　：平成2　～27年度
事 業 費　：2,458百万円
事業内容：

承水路	（10）	4,640m
集水路	（ 7）	1,773m
排水路	（ 2）	943m
水路兼農道	（17）	9,408m
関連農道	（ 3）	2,638m

1　事業の目的・必要性

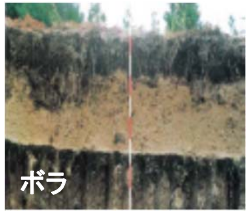
特殊土壌地帯とは

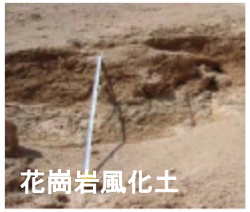
特殊土壌に覆われているために災害が発生しやすく、農業生産力が低い地帯として、国土交通大臣、総務大臣、農林水産大臣に指定された地域のこと



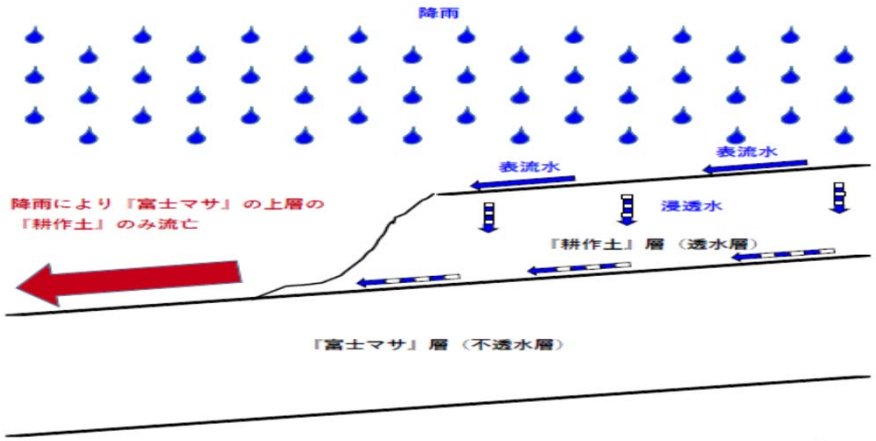
特殊土壌の種類

シラス、ボラ、コラ、赤ホヤ、花崗岩風化土、ヨナ、富士マサ



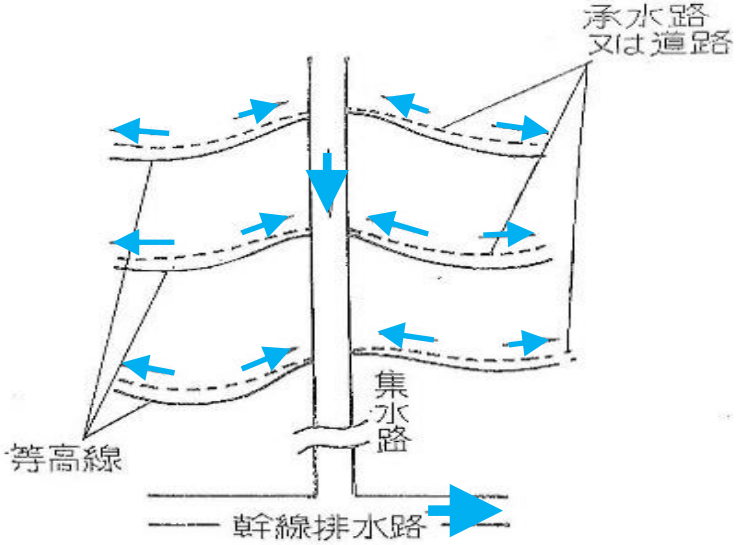


耕作土流亡のイメージ

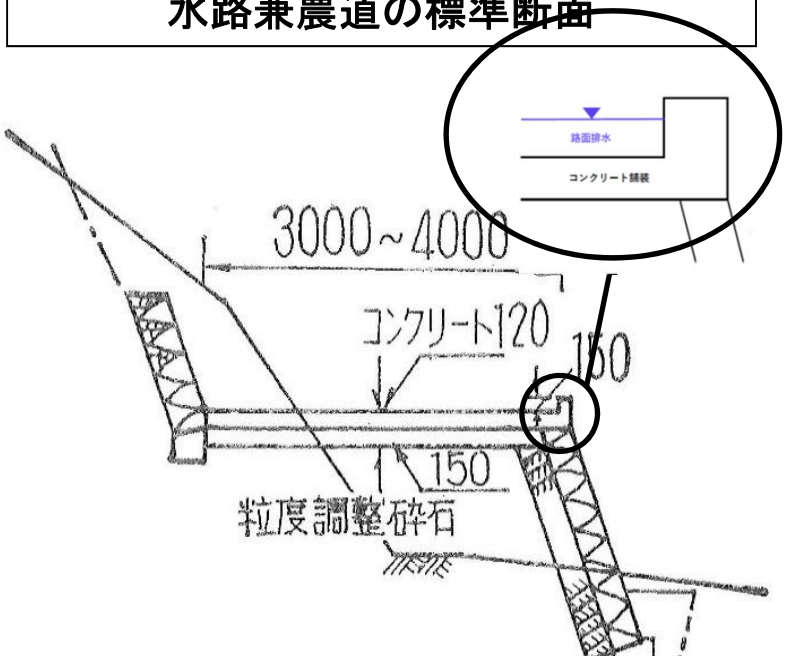


事業の目的・必要性

排水整備による農地の保全



水路兼農道の標準断面



水路兼農道

等高線沿いに設置（用地を節約）

承水路

等高線沿いに設置

排水路

集めた雨水を安全に流下
（落差を設け流速を抑制）

２　施設の利用状況や被害軽減効果等

	事業費	事業期間	施設の利用状況や被害軽減効果　等
前回	2,350百万円	平成２年度～平成23年度	農業持続的発展効果 年総効果額　166,503千円
事後	2,458百万円	平成２年度～平成27年度	農業持続的発展効果 年総効果額　224,556千円
差	108百万円 （1.0%増）	４年延長	年総効果額　58,053千円 （34.9%増）

農業持続的発展効果　：

台風等の豪雨により発生する農地、農業用施設の被害が軽減される効果。
農道開設により、農作業の効率が向上する効果。

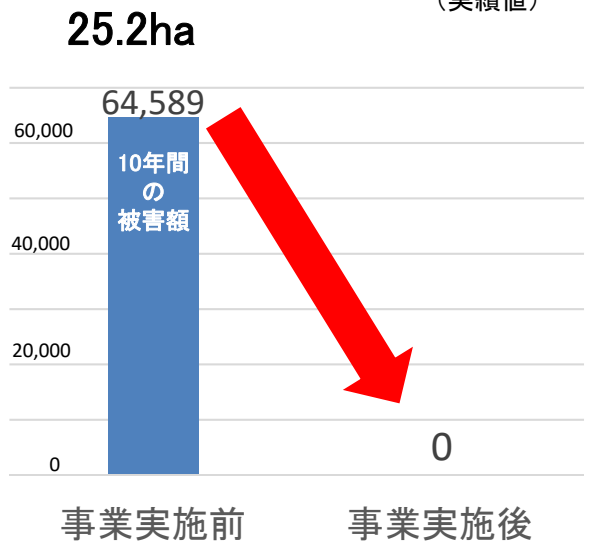
効果の増は、単収および単価の増減に伴う変動
（新）国産農産物安定供給効果を追加計上

３　事業の効果の発現状況

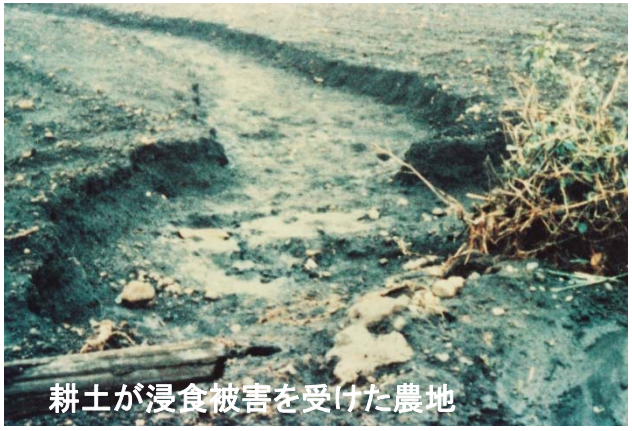
１）農地被害の軽減

災害防止効果
（農地、農業用施設の被害額　千円）

（実績値）

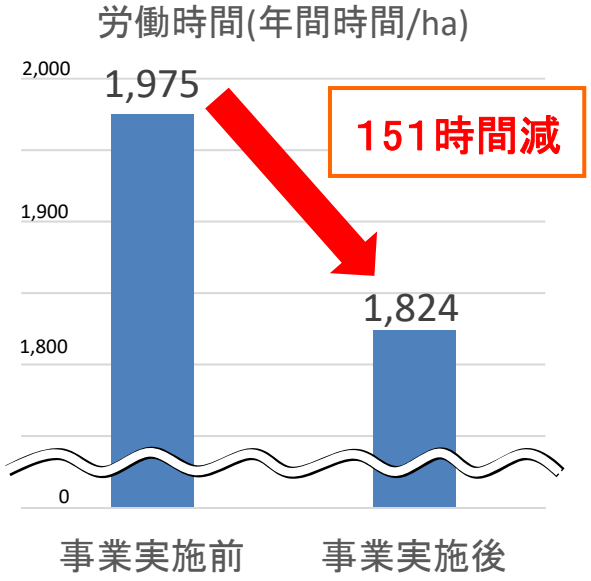


（出典：事業計画書）



２）農道整備による営農経費の節減

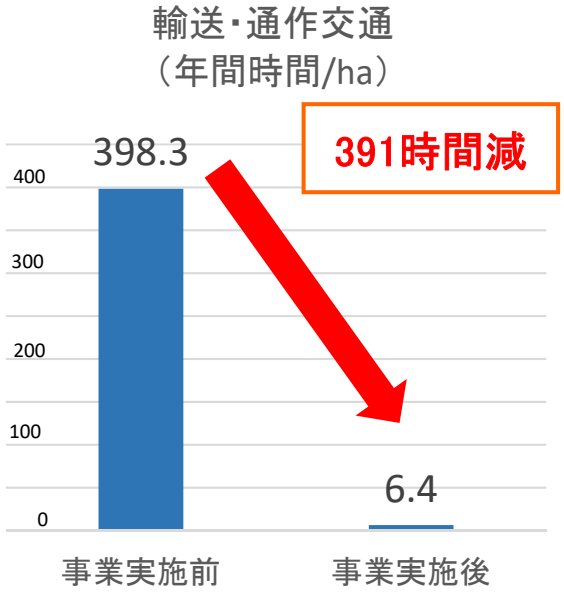
キャベツの営農時間節減効果
（計算値）



（出典：事業計画書、農林水産省資料）

３）輸送・通作時間の短縮

走行経費節減効果（計算値）



（出典：事業計画書、農林水産省資料）

事業効果の発現状況　補足説明

農作業効率を向上する機械の大型化が計画通り実現し、整備による作業時間の短縮を実感！！

〇アンケートに回答いただいた農家の96.8%がトラクターを導入

２）　農道整備による営農経費の節減効果

事業着手前

人力＋耕運機

H2　トラクターの使用　0%

耕起
施肥
中耕
除草
防除
収穫

作業効率
1.08倍（計算値）

現在

トラクター

R3　トラクターの使用率　96.8%
（アンケート結果）

事業効果の発現状況　補足説明

農道整備により運搬車両の大型化が実現！！

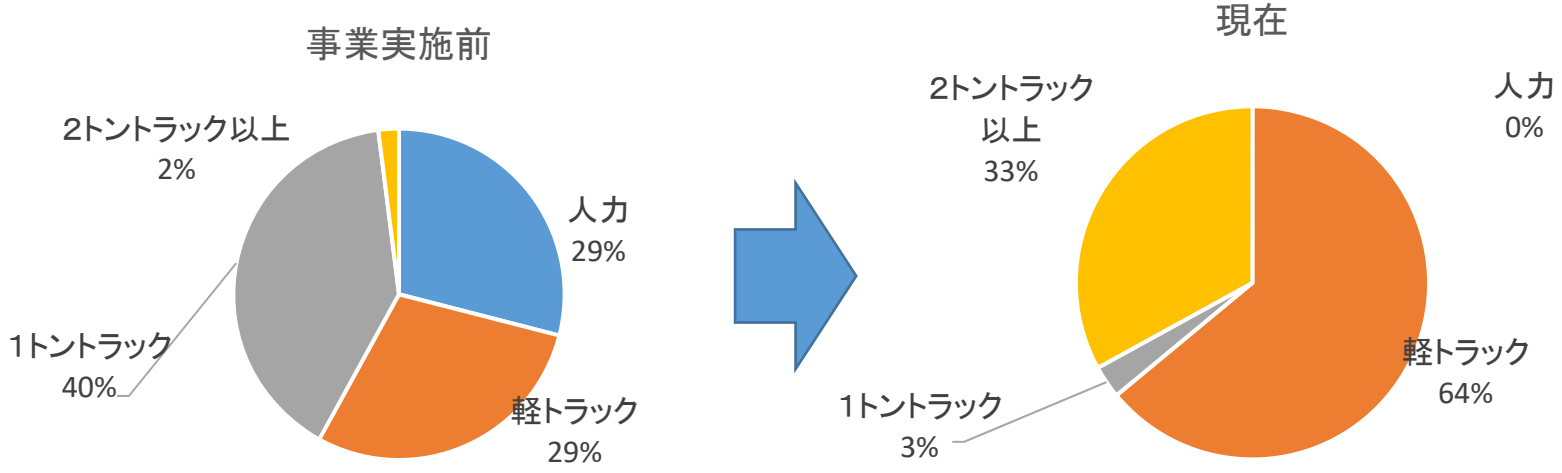
収穫物等の人力運搬が「ゼロ」に！！

〇自宅から農地への往復時間が大きく短縮されたとの意見あり

３）走行経費の節減効果

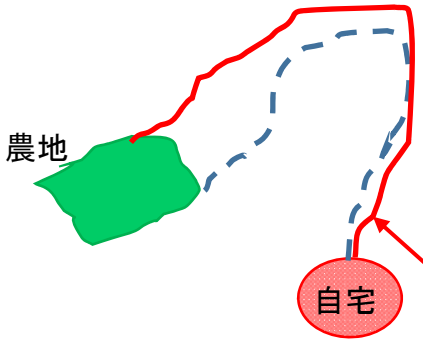
農作業時の運搬車両の変化

（アンケート結果）



事業効果の発現状況　補足説明

○自宅から農地への移動時間短縮事例①



事業着手前

往復0.6km
徒歩　12分

近傍類似箇所のイメージ

現　在

往復0.6km
軽トラック　2分（実測値）

＜軽トラック積載可能量（220kg）を運搬した場合の短縮時間（往復）の比較＞

（事業前）

人力運搬 （1回当たり運搬可能量20kg）
12分×11　回　⇒132分

1/66に短縮

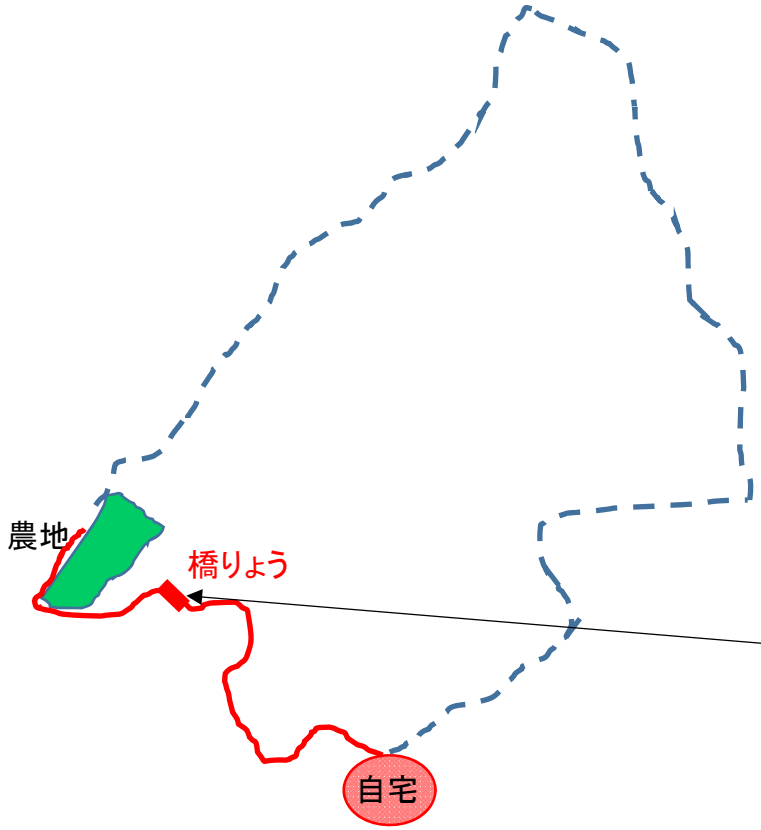
（現在）

軽トラック運搬 （1回当たり運搬可能量220kg）
2分×1　回　⇒2分

※（往復運搬時間）×（運搬回数）で算定。

事業効果の発現状況　補足説明

○自宅から農地への移動時間短縮事例②



事業着手前

3.5km
軽トラック　6分（実測値）

現　在

0.7km
軽トラック　1分（実測値）

距離の短縮により、運搬時間が1／6へ

【参考】この事例における二酸化炭素排出量の削減効果（年間）　147kg-CO2

4　事業実施による環境の変化

農山漁村の生活環境について

耕作土の流亡被害がなくなり、農地農道が整備されたことにより、多彩な作物が栽培されている

キャベツ

ジャンボ落花生

サトイモ

ジャガイモ

シキミ

大根

ブロッコリー

葉ネギ

ファーマーズマーケットで直売

学校給食における地産地消

学校給食における
富士宮産野菜の使用率は約37%
（出典：富士宮市立学校給食センター資料）

《食育推進基本計画》
学校給食における地場産物の
使用する割合
H26現状値：26.9%
R２目標値　：30%以上
（出典：農林水産省資料）

５　社会経済情勢等の変化

地域社会の動向

地域における世帯数の増加
（H24　379世帯　→　R2　389世帯）

伝統野菜　村山ニンジン

伝統野菜村山ニンジンの周知、栽培の継続を図るとともに、農業への理解を深めるため、地元小学生による収穫体験等を実施

地域経済の動向

小規模で多彩な農産品を生産する地域ならではの、農家が直接販売できる直売所が盛んになっている

富士山野菜センター

富士山登山道沿いにある女性だけで運営する直売所。良心的な価格設定で飲食店もこぞって仕入れにきます。 生産者らが直接持ち込む地場野菜は、品質と品揃えが魅力。

農民市場

まだ農産物直売所が現在のように数多くなかった平成10年にオープン。
新鮮な地場野菜、地元の特産品などを豊富に取り揃え、リーズナブルな価格で提供。

「う宮～な」

「JA富士宮」が運営するファーマーズマーケット。平成20年に開設され、地元農畜産物を中心に販売
令和２年度売上13億円(過去最高)で**県内1位**

６　対応方針（案）

評価結果

排水路整備を主に農道環境も改善 → 事業実施前のような被害はなく、営農や生活環境が向上

⇩

事業効果は発現しており改善措置の必要はない

今後の課題等

〇地域の伝統野菜である村山ニンジンやシキミ、落花生等の地域の特色ある農産物のブランド化を目指す

同種事業への反映等

〇土壌侵食が課題となっている地域において、当地区の土壌侵食防止工法を活用していく。